

第605回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 陸前高田市震災復興事業

…………… 岩手県陸前高田市

平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、陸前高田市では大津波により、高田地区海岸の防潮堤を越え、市街地が飲み込まれ、商業・観光施設、地場産業施設、住宅、交通網、行政機能など広範多岐にわたる地域の社会的機能が壊滅的な被害を受けました。7万本の松林の中でただ1本だけ津波に耐え抜いた「奇跡の一本松」で有名となった陸前高田市の高田地区海岸では、地震に伴う地盤沈下及び液状化が発生し、防潮堤・松原などが流失するなど壊滅的な被害を受けました。

①高田地区海岸災害復旧事業

本事業地周辺は、名勝「高田松原」に指定されており白砂青松の風光明媚な場所で海水浴や散策など多くの方々の憩いの場でもありましたが、壊滅的な被害を受けたため、長さ約2kmに及ぶ二つの防潮堤（第一線堤、第二線堤）を再整備するとともに、津波で被害を受けた海中の人工リーフを1,200mにわたって復旧する海岸復旧工事を平成27年度の完成をめざし、実施しています。



②陸前高田市震災復興区画整理事業

津波により建物が倒壊するなど壊滅的な被害を受けた高田地区と今泉地区においては、安全な高台の住宅地への移転意向が強く、土地区画整理事業により造成工事を進めているところです。

また、今泉地区土砂搬出のためのベルトコンベア用吊り橋「希望のかけ橋」が、国道45号と気仙川を跨いで架設されました。日最大運搬量は約2万 m^3 を見込でおり、これらの活用により平成30年度の事業完成を目指しています。



③気仙川災害復旧事業 (気仙川水門)

東日本大震災に伴う大津波は、海岸付近で最大痕跡高TP+17.0mであったことが確認されており、二級河川気仙川では、東日本大震災の津波が護岸を超えて、河口から7km以上遡上しながら4橋梁を流出するなど市街地が甚大な被害を受けたことから、新たに災害復旧事業として、水門を設置し、防潮堤の再整備とあわせて、新しい市街地を津波から守ります。



2 大船渡市震災復興事業

..... 岩手県大船渡市

①大船渡港湾口防波堤災害復旧事業

大船渡港湾口防波堤は、昭和35年5月の南米チリ地震による津波被害をきっかけに建設され、40年以上に渡って大船渡市を津波や波浪から守ってきました。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、ほぼ全てケーソンがマウンドから滑落しました。被災後、港内の水質改善が見られ、湾口防波堤の不要論が起りましたが、大船渡市民の津波や波浪に対する不安を解消するため復旧が決定され、懸念される湾内の水質悪化に対しては、海水交換機能を有するよう南堤、北堤の陸側端部に20mの開口部を、防波堤中央開口部のマウンド内には通水管を設置します。

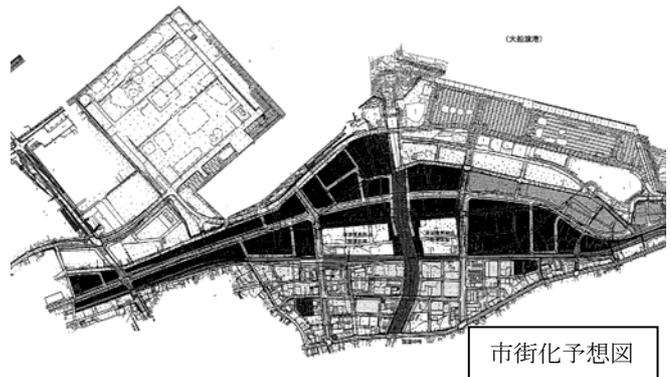


②大船渡市震災復興区画整理事業

大船渡駅周辺地区土地区画整理事業及び津波復興拠点整備事業として、津波からの安全なまちづくりと賑わいのある商業機能の集積を目指す土地利用方針とし、道路・公園等をはじめとする公共施設の再整備や地盤の嵩上げを行い、安全な市街地の形成と産業の復興を図っています。大船渡駅周辺地区については、災害に強いまちづくりを目指すとともに、将来的に市の中心地区として、産業の振興を図る土地利用と安全・安心な住宅街を整備することとし、津波が発生した場合でも都市機能を維持するための拠点となる市街地を形成するため、防災拠点施設の整備及び商業・業務の再生を図ることとしています。



鳥瞰図 (イメージ)



市街化予想図

3 東北横断自動車道建設事業 釜石秋田線

..... 岩手県釜石市～秋田県秋田市

東北横断自動車道釜石秋田線は、釜石港、大船渡港などの重要港湾や三陸地方拠点都市地域と、花巻空港や北上中部地方拠点都市地域、ひいては日本海側の空、海の玄関口である秋田市とを結ぶ、東北地方の広域交通網の骨格をなす総延長211kmの高速自動車国道です。東日本大震災で被災した沿岸地域の日でも早い復興を支援するとともに、沿岸と内陸の交流をより促進するものとして、復興支援道路の整備を進めています。現在着工中の同路線は、遠野IC～東和ICまでの33kmは国の直轄施工での整備を進めています。この路線が開通

すると、産業（物流）の効率化及び地域医療の連携強化が図られるとともに、沿線地域の観光の振興も期待され、岩手県の復興に大きな役割を果たすこととなります。

